

1000本桜では日本一にはなれないので、100万本の桜を目指そう。奈良の吉野は3万本らしいので、まずは、それを追いつくことを目指して行動してはいかがでしょうか。



桜を活かしたまちづくりについては、町の重要な観光戦略として夏井の千本桜を中心にしながら進めています。

桜に関しては、今後の管理手段として桜のオーナー制などのご意見もあることから、将来にわたる管理方法を検討しています。

なお、桜に限らず100万本の水仙やコスモス、梅の町など、地域の誇りとなるような「花の里」づくりを、住民や地域等が一丸となって取り組むことが大切だと思います。他に類を見ない新たな「地域の宝」を育むことができるよう、樹種・植樹・管理方法など多方面のご助言をお聞きし、ご提案の趣旨を踏まえながら観光行政に活かしていきたいと思っています。

小野町の歴史や観光をわかりやすく知ってもらう目的で、子供から大人一般まで幅広い世代からの公募により文章(読み札)を作り、絵や写真で「取り札」を作成して、幼児や低学年に贈ってはいかがでしょうか。

六歌仙の一人「小野小町」の生誕伝説のある小野町にとっては、和歌をもちいた地域紹介なども地域資源を活かした個性的なPR方法の一つと考えます。

他の自治体・観光協会においては先例もあり、その効果等を調査し、裏面を名詞に活用できるなど、小野町の独自色を発揮しながら広く町民に親しまれる、また、観光PR素材として利用できるカルタとして、公募などによる作成方法、無償・有償を含めた販売方法、企画作成機関を研究し、提案の趣旨に沿って実施していきたいと考えています。



石塚医院より絵本寄贈

9月14日、町長室において「石塚幼児文庫」の贈呈式が行われました。

これは、石塚医院(石塚尋朗院長)より、「園児達に優れた絵本とふれあい、豊かな人格を形成していただきたい」と、昨年に引き続き町内6幼児施設に絵本57冊を寄贈していただいたものです。

いただいた絵本は、早速、各園において午睡前や降園前に読み聞かせしております。

この度のご好意に対し、紙上より厚く御礼申し上げます。



(左から) 吉田教育長、橋本園長、宍戸町長、石塚尋朗院長、石塚ミフコプランナー